

第 2 号様式（第 4 関係）

令和 8 年 9 月 4 日

調布市議会議長 宮 本 和 実 様

総務委員長 平 野 充

視 察 等 共 通 部 分 報 告 書

下記のとおり、視察（~~研修~~・視察研修）を実施いたしましたので、
視察等個別部分報告書（第 3 号様式）を添えて報告いたします。

記

1 実施名称（テーマ）

令和 8 年度調布市議会総務委員会行政視察

2 実施期日（期間）

令和 8 年 7 月 13 日

3 実施場所（視察先・研修会場）

公営 稲城・府中メモリアルパーク

4 実施目的

総務委員会所管事務について、他自治体の視察、事務調査を行う
ことにより、今後の市政に十分反映させることを目的とする。

5 参加者の氏名

・平野 充 ・山根 洋平 ・岸本 直子 ・田中 謙二
・沼田 亮 ・藤川 満恵 ・宮本 和実

6 実施結果（視察概要・研修概要）

・公営 稲城・府中メモリアルパーク（公営の墓地・納骨堂・火葬場等を含む市民への終活支援について）

稲城・府中メモリアルパーク職員による説明

（1）設立時の経緯

平成10年頃、当時の府中市長から市民墓地を検討しているが、候補地がなかなか見つからないと稲城市長に相談があったことがきっかけ。当時、南山東部地区の88ヘクタールに及ぶ大規模な土地区画整理組合設立に向けた検討が行われていたこともあり、事業検討がスタートした。

平成18年 南山東部土地区画整理事業認可

平成24年 稲城・府中墓苑組合設立

平成25年 用地取得

平成25年 工事開始

平成27年 稲城・府中メモリアルパーク開苑、墓地使用者募集開始

（2）イニシャルコスト

用地取得費 2,178,554千円

実施設計等 41,401千円

造成・建築・植栽等工事 1,942,414千円

計 4,162,369千円

（3）検討内容

将来人口、死亡率等から合葬・平面墓の数を算出。樹林墓については、近年の需要を鑑みて、実施設計時に追加した。墓地使用料及び管理料については、墓地整備費、公債費、管理経費、改修費等を全て使用料収入で賄う考えのもと、墓地形態ごとの専有部分による按分等により算出。各市の負担金についても利用率に応じた按分等により算出。墓地使用者募集の条件については、東京都や横浜市の制度を参考にした。

（4）現在の利用状況

墓地については、普通墓地が353基中351基（99%）、芝生墓地が2,955基中2,551基（86%）、合葬式墓地が5,036基中2,616基（52%）樹林式墓地が3,000基中1,665基（52%）。構成は稲城市民4割、府中市民6割。

式場については年間約140件で、主に稲城市民が利用。

(5) 事業収支と経年変化

南山ホールと墓地で会計を分けている。令和8年度の南山ホールについては、歳出入予算が79,177千円。墓地については、歳出入予算が304,074千円。令和6年度に債務償還が終了したことにより、特別会計が逡減している。

(6) ランニングコスト

コロナ禍で令和3年度の墓地使用料収入、ホール等施設利用料収入が著しく減少したことにより、応募条件の緩和（在住5年→1年）や、有期限墓地の導入などを行った。物価高の影響は各支出に顕在化しているが、人件費、広告費等の支出抑制により、大きな影響は生じていない。

(7) 長期的な見通し

現時点では大規模な修繕・改修の予定はない。また、芝生墓地と樹林墓の募集終了が近づくなか、墓地の増設なども再考する必要がある。

一公営 稲城・府中メモリアルパーク



7 その他

特になし

8 実施結果に対する所感、意見等

視察等個別部分報告書のとおり

第 3 号様式（第 4 関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	平野 充
1 視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）		
公営 稲城・府中メモリアルパーク 「公営の墓地・納骨堂・火葬場等を含む市民への終活支援について」		
2 実施結果に対する所感、意見等		
（質疑・意見交換した内容、今後の市政に生かすべき点等）		
再び、調布市議会総務委員会として所管事務調査の一環で行政視察を行った。「公営の墓地・納骨堂・火葬場等を含む市民への終活支援について」がテーマであり、整備・運営・業務においてハード・ソフト両面からのアプローチとして近隣自治体を参考にするため、稲城市・府中市で運営するメモリアルパークを選んだ。 今から 28 年ほど前に当時の府中市長から稲城市長へ「市民墓地の整備で候補地を探している」との相談から始まっている。稲城に保留地が存在していたため、周辺住民の理解等を含め可能となり、2015 年 9 月、稲城・府中メモリアルパークが開苑している。墓地は各種選べることができ、普通墓地、芝生墓地、樹林式墓地、合葬式墓地がある。稲城市民、府中市民、両市民の受益者負担となっているが公営墓地でもあり、価格も抑えられている（墓地利用は府中市 6 割・稲城市 4 割）。 それぞれの市負担金（ルールあり）も含め、組合運営としての歳入歳出一般会計と墓園の会計としての歳入歳出特別会計がある（墓地・ホールは受益者負担とはいえ、それだけで賄えるものではない）。 一般会計予算では、立ち上げ年度である平成 27 年度は 3 億 3,775 万円。以降は年間 7 千万円～8 千万円。 特別会計（墓地の会計）の方は、開苑 2 年目から 6 年目までは年間 10 億円を大きく超えたが令和 6 年度に債務償還（土地）が終了し、以降、令和 8 年度としては年間 3 億円余となっている。 本事業が行える大きな要因は土地があったこと。また、火葬場として南多摩に 5 市共同（八王子・町田・多摩・稲城・日野）の火葬場を含む斎場があるため、稲城市民は火葬における自己負担は無い。府中市は市単独で府中の		

森市民聖苑をもっているため府中市民の火葬は自己負担無し。

3 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）

調布市で火葬場を整備するには、相当な協議が必要であり、単独での運営ではなく一部事務組合としての方が見込みがあるように思える。将来、実現できたとしても、かなり先になるため、それまでは火葬に対する「助成制度」を設計していきたい。政策提言の一項目にも考えたい。

第 3 号様式（第 4 関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	山根 洋平
1 視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）		
公営 稲城・府中メモリアルパーク 「公営の墓地・納骨堂・火葬場等を含む市民への終活支援について」		
2 実施結果に対する所感、意見等 （質疑・意見交換した内容、今後の市政に生かすべき点等）		
稲城・府中メモリアルパークが整備される経緯としては、平成 10 年頃に当時の府中市長から稲城市長に対して、現在の用地の区画整理事業に併せて墓地整備ができないかという打診をしたことがきっかけであったことがわかった。その後、10 数年を経て、平成 27 年に開苑した。当時の推計から、墓地の需要予測を 8,400 区画と算定し、合葬・平面（普通墓地・芝生墓地）の数を定めるとともに、樹林墓を実施設計の段階で追加した。 墓地使用料については受益者負担の観点から、墓地整備費・公債費・管理経費・中長期的改修費を全て墓地使用料収入で賄うこととし、令和 6 年度で公債費の償還が完了したことから、今後は施設改修のため基金に使用料収入を積み立てているとのことであった。 今後の見通しとしては、芝生墓地は令和 10 年を、樹林墓は令和 16 年を目途に募集終了となる見込みであることから、職員配置や樹林墓の増設についても再考する必要があるとのことであった。		
3 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）		
稲城市と府中市の共同事業であり、立地市である稲城市では墓地の乱開発を防ぐために厳しい条例を定めている中、府中市における墓地需要の高まりから整備された経緯がある。また、稲城市では南多摩斎場で火葬を行うことができるが、市内からは 1 時間程度を要し、火葬から当施設での葬祭・納骨という流れとした場合には、ご遺体の火葬場と当施設との往復に時間を要するという課題があると感じた。また近年では合葬墓や樹林墓といった、遺族に負担の少ない形式のお墓の申し込みが増えているということであり、受け入れ容量の拡大が求められる一方で、普通墓地が使われないまま返還される事例もあったとのことで、終活支援における情報連携の必要性を感じた。		

第 3 号様式（第 4 関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	岸本 直子
1 視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）		
公営 稲城・府中メモリアルパーク 「公営の墓地・納骨堂・火葬場等を含む市民への終活支援について」		
2 実施結果に対する所感，意見等		
（質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）		
総務委員会で所管事務調査を実施中だが、調布市に政策提言を目指して取り組んでいる課題は「公営の墓地・納骨堂・火葬場等を含む市民への終活支援」である。 既に実施したアンケート活動では 642 件もの回答が寄せられ、高齢化が進む中で多くの市民の関心が高いことを示している。総務委員会では地方自治体ができる支援について、最終的に政策提言をめざして党派を超えて調査・研究中である。 7 月 7 日の横須賀市への視察と共に、7 月 13 日は近隣自治体である「公営 稲城・府中メモリアルパーク」の現地調査を行い、担当者から事業概要について説明を受けた。 平成 10（1998）年、南山東部地区の 88 ヘクタールとなる大規模な土地区画整理組合設立に向けて検討が行われている頃、当時の府中市長から市民墓地の検討に伴う土地探しについて稲城市長へも投げかけがあったことが大きなきっかけとのこと。この地域では当初、南山全体の大規模な大型宅地開発に対する大きな反対運動があった地域だったと記憶している。 墓地そのものではなく「多摩丘陵に残された里山・自然環境の破壊につながる開発全体に対する懸念」が住民の中でも広がった案件だったと思うが、この事業が進む中で、異論を示していた住民から、自然環境への配慮や盛り土・盛土の計画見直しを求めるようになっていた経緯もあるが、稲城市では市議会でも論戦が行われていた。稲城市が最終的に行ったのは当初の計画よりも緑地を多く残す変更や見直しがされたはず。 また、府中市では市独自の墓地不足を強調していた経過もあり、市議会でもそうした質問などもあったようだが、結局「稲城市や墓苑組合において環		

境アセスメントや近隣住民への周知や配慮が行われている」という立場だったと思う。

しかしながらこうした両市の経過を経て、墓苑組合では芝生墓地や樹林型墓地を中心とした公園型の墓地を考え整備することにしたそう。

市民の声を完全に拒否するのではなく、ある程度取り入れた墓地になっていることは重要なことと思う。住民が心配していた環境や大型開発に関する心配の声も、結局「乱開発抑制という見地」として生かされたのではないかなと思う。

稲城市と府中市が共同で公営墓地として保留地処分先に検討可能か準備会に打診し、最終的に合意が図られ事業検討がスタートし、高低差のある土地区画整理事業区域の地形により宅地利用はできない斜面を活用して低予算で用地取得可能な墓地を想定したという報告もあった。

当時の課題は「バリアフリー化の考慮」とのことだそうだが、その後一定の平坦な用地が望まれ、土地区画整理組合と協議を重ね、検討を重ねて現在の姿となった。平成 18（2006）年に南山東部土地区画整理事業認可を行い、平成 24（2012）年に稲城・府中墓苑組合設立後、保留地を取得し、工事開始は平成 25（2013）年 4 月、平成 27（2015）年に公営の稲城・府中メモリアルパークを開苑、墓地使用者の募集も開始とのこと。

現在の利用状況は、墓石を建てる普通墓地 99%、芝生墓地 86%、合葬式墓地は 20 年使用の条件があり遺骨処分があるため現在は 52%とのことだが、そのほかに樹林式墓地 100%、合葬室などもほとんどが満室の状況。

市民にとって、身近な場所に終活支援の場があることは安心だが、都心に近くなればなるほど、広大な土地を確保するのは困難であり、自治体単独でこうした事業を担い続けるのも限界が生じるため、墓地を維持していくための仕組みの設定や、運営を自治体独自で行うのか、あるいは広域なのか、広い視野をもって進めることは重要…と説明を聞きながら課題を受け止めた。

この公営メモリアルパーク設立当初の予算は、特別会計となっており債務償還は令和 6 年度で終了しており、現在のところ、使用料を墓地整備費、公債費、管理経費、中長期的な改修費などに活かす財政状況となっているそう。こうした経費の基本は「使用料収入で賄う」とのことだが、そうした運営のための努力は重要であり、今後の墓地の姿・あり方や自然環境との融合、

運営について、細部にまで注意が行き届くような計画の緻密さも重要な視点だな、と考えた。

◇今後も、都市部の地球温暖化に配慮したあり方と同時に、調布市では本格始動していない「終活支援」のあり方を本格的に進めるための視点をもちながら、調査研究を進めたい。

3 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）

文中に記載

第3号様式（第4関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	田中 謙二
1 視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）		
公営 稲城・府中メモリアルパーク 「公営の墓地・納骨堂・火葬場等を含む市民への終活支援について」		
2 実施結果に対する所感，意見等		
（質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等） 稲城市は、他自治体と比べて墓地不足が深刻な自治体ではないことがわかった。むしろ、稲城市・府中市が共同運営する公営霊園や南多摩郡市霊園があることから、現在における全体的な課題・方向は、墓地を増やすことよりも、時代の要請に合った墓地へどう転換を図っていくのかという点にあると感じた。 そういった意味では、普通墓地や芝生墓地よりも合同式墓地、樹林式墓地の需要が増えている傾向がうかがえる。その理由としては、少子高齢化や未婚率の上昇によって、これまでのような「代々受け継ぐ墓」を希望する人が減っていることが考えられるとのこと。 子どもが遠方に住むケースや、継承者がいない家庭が増え、墓じまいの相談は全国的に増加しており、行政としても対応が求められている。今後は、墓地管理者が不明となる墓や無縁墓への対応が自治体の負担となる可能性を検討すべき段階にあると考える。		
3 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）		
近年では、多様な弔い方への対応が求められている。例えば、合同葬、樹木葬、永代供養墓、納骨堂など、多種多様なニーズが高まっており、東京都の調査でも、「手間や費用が少ない墓」を求める傾向が強いことが分かっている。行政としては、墓じまいの支援、無縁墓への対策、終活支援との連携、高齢者が利用しやすい墓地の在り方など、住民ニーズに寄り添った細やかな支援を具体的に検討する段階にあると思うので、そういう視点で調査研究を進めたい。		

第 3 号様式（第 4 関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	沼田 亮
1 視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）		
公営 稲城・府中メモリアルパーク 「公営の墓地・納骨堂・火葬場等を含む市民への終活支援について」		
2 実施結果に対する所感，意見等		
（質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）		
公営 稲城・府中メモリアルパークは、稲城市と府中市が共同で設立した「稲城・府中墓苑組合」が運営する公営の墓地・総合メモリアル施設である。2015 年の開園以来、南多摩エリア（特に稲城市・府中市民）の需要に応える現代的な公営霊園として高い評価を得ている。 本施設は、単なる「お墓を建てる場所」ととどまらず、時代のニーズに合わせた多角的な墓地形態と葬祭機能を一体化させている点が最大の特徴である。 <u>墓地形態のバリエーション</u> ・芝生墓地：洋風の明るい平坦地に、あらかじめ設置された墓石へネームプレートを取り付けるタイプ。手入れの負担が少なく近年の主流である。 ・合葬式墓地：継承者が不要な永代供養型の形態。使用許可日から換算して 20 年間は建物内の納骨堂に骨壺等で埋蔵。その後は、建物内の合葬室に個別の納骨袋に移し、共同埋葬する。 ・樹林式墓地：継承者が不要な永代供養型の形態。イロハモミジの樹下で土に還る自然志向の需要に対応している。 <u>併設施設「南山ホール」</u> 通夜・告別式・法要が執り行える葬儀施設を敷地内に完備。移動の手間を最小限に抑え、一連の法事をワンストップで完結できる。 本施設のメリット、デメリットを以下に記す。 <u>メリット</u> ・公営ならではの安心感と費用パフォーマンス 自治体運営のため倒産リスクがなく、永代使用料や管理費が民間霊園に比べてリーズナブルかつ透明性が高い。 ・宗派不問・継承者問題への配慮		

宗教・宗派を一切問わず、檀家義務もない。合葬式や樹林式を備えているため、単身者や「子どもに墓じまいの負担をかけたくない」層の受け皿となっている。

・景観・ロケーションの質の高さ

よみうりランドに程近い南山地区の高台に位置し、緑に囲まれながら遠くに新宿副都心まで見渡せて、明るく開放感がある。従来の「暗い・湿っぽい」お墓のイメージを覆す近代的な空間設計である。

デメリット

・利用条件の制限（市民限定）

申込者は「稲城市民または府中市民」であり、かつ1年以上継続して居住していることなどの厳格な要件が設定されている。市外居住者は原則利用できない。

・火葬場は未併設

南山ホールで葬儀・告別式は行えるが、火葬場自体は未併設のため、火葬の際は近隣の「南多摩斎場」や「府中市聖苑」等へ移動する必要がある。

今後の見通しとしては、年間約400件の応募がある中で、芝生墓地が令和10年、樹林墓が令和16年くらいで終了となる見込みであり、募集方法や募集に係る職員の配置、樹林墓の増設なども再考する必要があるものと考えられる。

最後に総括すると、稲城・府中メモリアルパークは、「手頃な価格帯・高い透明性・維持のしやすさ・多様な供養様式」を高次元で満たした、広域公営霊園の成功モデルといえる。特に、「従来の代々墓に拘らず、明るい環境でコンパクトに供養したい」「稲城市・府中市にゆかりがあり、将来的なお墓の管理リスクを減らしたい」という世帯にとって、地域内における第一選択肢となる優れた施設である。

3 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）

調布市においては、公営の墓地・納骨堂・火葬場を保有していないため、他市に比べて、終活支援の行政サービスは劣っている部分がある。今後、近隣自治体と連携して、協議・検討を多角的に進め、調布市に適切な施設整備や制度設計が必要であると考えられる。

第3号様式（第4関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	藤川 満恵
1 視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）		
公営 稲城・府中メモリアルパーク 「公営の墓地・納骨堂・火葬場等を含む市民への終活支援について」		
2 実施結果に対する所感、意見等		
（質疑・意見交換した内容、今後の市政に生かすべき点等）		
総務委員会では、「公営の墓地・納骨堂・火葬場等を含む市民への終活支援」をテーマに所管事務調査を進めている。その一環として実施したアンケートでは、642件の回答が寄せられ、市民ニーズを踏まえた調査研究を行うため、稲城市・府中市が共同で整備・運営する「公営 稲城・府中メモリアルパーク」を視察させていただいた。 稲城・府中メモリアルパークは、両市が広域連携により整備した公営墓地であり、普通墓地だけでなく、芝生墓地、合葬式墓地、樹林墓地など多様な埋葬方法が整備されていた。また、式場や法要室、霊安室なども併設され、市民の終活を総合的に支える施設となっていた。 特に樹林墓地は初めて拝見したが、樹木や植栽の下が遺骨を納める場所になっており、需要の多さからこちらの施設では、1500募集の予定を3000に増やされていた。 整備にあたっては、用地取得から施設整備まで約41億円の初期投資を要した一方、現在は墓地使用料や管理料を基本としながら安定した運営が行われており、施設の長寿命化を見据えた維持管理も進められていた。 今回の視察内容は、市民アンケート結果と多くの点で一致していると感じた。アンケートでは、 ・ 約38%の方が「入るお墓がない」 ・ 約64%の方が「市内に公営の樹木葬・合葬墓があれば利用したい」 ・ 約63%の方が「一時的に遺骨を預けられる公営納骨堂があれば利用したい」 ・ 約88%の方が「終活について事前に相談・予約できる仕組みがあればよい」 と回答しており、終活に対する行政支援を望む声が非常に多いことが確認で		

きた。

一方で、稲城・府中メモリアルパークでは、こうした多様なニーズに対応できる施設整備が整っており、市民ニーズを踏まえた行政サービスとして参考になる点が多かった。

また、今後課題となる無縁仏への対策として、毎年ご家族と連携をとり、普通墓地や芝生墓地については30年後には施設側で墓じまいをする仕組みとなっていた。合葬式墓地については、20年で個別の合葬式墓地から遺骨だけを収集している永代の合葬へと移行する仕組みとなっていた。

今回の視察を通じて、公営墓地・納骨堂は単に「お墓を整備する事業」ではなく、市民が安心して人生の最終段階を迎えるための重要な行政サービスであることを改めて実感した。

一方で、用地確保や財政負担など大きな課題があり、調布市単独での整備は容易ではないことも理解できた。しかし、稲城市・府中市のような広域連携による整備や、多様な埋葬方法への対応などは、今後、調布市の終活支援を検討する上で大変参考となるものであった。

今後も、市民アンケートで寄せられた多くの声を大切にしながら、市民が安心して人生の最終段階を迎えられる環境づくりについて、引き続き調査・研究を深め、市政へつなげてまいりたい。

3 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）

文中に記載

第3号様式（第4関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	宮本 和実
1 視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）		
公営 稲城・府中メモリアルパーク 「公営の墓地・納骨堂・火葬場等を含む市民への終活支援について」		
2 実施結果に対する所感、意見等		
（質疑・意見交換した内容、今後の市政に生かすべき点等） 今回の視察先の「公営 稲城・府中メモリアルパーク」は両市の共同事業であり、稲城市においては墓地の乱開発を防ぐため、府中市においては墓地需要の高まりのため、双方の合意で事業が進んだ。当時は様々な反対意見もあったが、緑地を増やすなど市民の理解を得て成立した経緯がある。稲城市においては、南多摩斎場において公営の火葬場を一部事務組合の一員として持っているが、距離も遠く公営の墓地を稲城市に持つことの意義があったようだ。また府中市においても公営の火葬場を府中聖苑として持ち、公営の墓地を探していたのだろう。 内容は、普通墓地、芝生墓地、合葬式墓地、樹林式墓地等があり、開園当時は人気となり応募も多かったが、現在では墓石を立てる普通墓地の需要は少ないという。逆に樹林葬の需要は高いようである。 公営墓地として、やはり費用面、信頼面などは市民からの評価も高いようだ。		
3 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）		
調布市には公営の火葬場も墓地もない。つまり人が亡くなり火葬され埋葬される行為は、行政として関与しない取組として考えている。 稲城市や府中市のように、公営事業として捉え取り組んでいる自治体がほとんどであるが、我が市においては税金を投入する事業とは捉えていないのが現状である。人間の死について、今一度考え直して欲しいと思う。 樹林葬などは参考になる墓地の例だと感じた。我が市において、この行為が公営として捉えるのならどんなことが出来るのか、連携なのか補助制度なのか、再考の時期が来ていると思う。		